



天塩町長 吉田 忠

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。昨年は、町政各般にわたり多大なるご理解とご協力を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。皆様の日々の暮らしを支える地域活動や健やかに成長すること

も達の笑顔、努力と工夫を重ねる力強い産業の姿に勇気をいただき、山積する課題に真摯に取り組み、まちづくりへの歩みを進めることができましたこと、心より感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、災害対応や人口減少への対策など、改めて町政の執行の責任の重さを感じる1年でありました。

8月には観測史上最大の記録的大雨に見舞われ、農村地区を中心に農地の浸水や林道の一部崩壊、住宅の床上・床下浸水などの被害を受けました。幸いにも人的被害はございませんでしたが、この度の災害で被害にあわれた皆様におきましては、改

めまして心よりお見舞い申し上げます。今回の豪雨災害は、国による「激甚災害」の指定を受けました。町としても早期復旧に向けて、関係機関と連携しながら対応を進めているところでございます。

地域が抱える課題に国の職員が伴走支援する「地方創生伴走支援制度」が昨年創設されました。町政を数年経験し、まちの課題も次第に見えてきたところで、本制度の活用に応募したところ、北海道では、数ある自治体の中から本町を含む6町村が選定されました。本町では、3名の地方創生支援官（総務省、農林水産省及び財務省）に産業振興や人材確保などの課題解決に向けたご支援とご助言を日々いただいております。限られた期間での支援となりますが、まちづくりの新しい風を吹き込むこと

に大変刺激を受け、身の引き締まる思いで「地方創生」に向けた施策の検討を重ねております。

昨年春の天塩高等学校の入学人数「15人」という数字に、人口減少と少子化の進行を痛切に感じさせられ

ました。従前は、1学年2間口維持に向けた様々な魅力化施策を推進してまいりましたが、近年は、1学年1間口となりました。地域における高等学校は、若者の流出を防ぎ、地域の人材を育成していく基盤であり、まちの未来をより確かなものとするために必要な存在です。この少子化という難局を乗り越え、地域に高校を残していくために、天塩高等学校存続期成会の活動を再開しました。近隣町や関係機関と連携しながら、天塩高等学校の存続に向けた要望活動を実施しております。

国勢調査が実施されましたが、本町の人口は約2,500人にまで減少し、私が生まれた昭和40年の人口約9,500人と比べ60年間で約1/4の人口となりました。都市部への人口一極集中や人口減少は、日本全体としての課題ではありますが、地方創生伴走支援制度を活用する中で、まちづくりにおける「縮充」という考え方を知ることができました。人口減少を受け入れつつ充実したまちづくりを目指す、人口が減っても元気な地域を皆様と作っていくという考えです。町民の皆様はもちろん、町外にも本町のまちづくりを応援いただける方々や、専門知識を持った貴重な人材がご

います。関係機関や民間企業と連携した取り組みの中で、多くの方々の「つながり」を持つことができました。これら多様な外部人材の知見やノウハウを活用すること、地域への人の流れと関係性を創ることで、地

域の魅力と価値を一層高めることができ、充実したまちづくりが実現できると考えております。地域おこし協力隊制度は、地域の新たな担い手として地域力の充実を図る取り組みです。本町では現在、2名の地域おこし協力隊が地域で活躍しており、新年も新たな分野で数名の地域おこし協力隊希望者が内定しておりますので、地域の一員として共にまちづくりに取り組めることを心待ちにしております。また、多様な外部人材を活用し、その知見とノウハウをまちづくりに積極的に取り入れる体制を構築していきたい思いです。

不安定な国際情勢において物価高が長期化する中でも、町の基幹産業であります農林水産業は、力強く経営を続けており、生産者の皆様の継承されてきた技術と日々の努力に心より敬意を抱いております。また、夏季に開催されました「天塩川じみまつり」は、数年ぶりに2日間の日程で天塩高等学校とも連携して開催され、町内外から約1万5千人の多くの皆様にご来場いただきました。天塩川河川公園を会場とした本イベントも3回目を迎え、出店者と来場者も年々増加しており、町を代表するイベントとして盛会に開催することができました。多くの皆様の支えと「地域の一体感」を感じられたこと、大変嬉しく思っております。観光人口でも定住人口でもなく、地域や地域の人々と多様に関わる人々を「関係人口」といいます。観光人口の増加も大変喜ばしいことであ

り、町外の方々との交流が活発に行われることで、新たなつながりが生まれるものと存じます。そのつながりが関係人口となり、定住する人口にとどまらず、天塩町の未来を創るまちづくりの担い手となることに大きな期待を抱いております。私もこれまで築き上げてきた多様なスキルを持った外部の方々とのつながりを大切にしつつ、より多くの方々と新たな関係を築き上げていくことで、関係人口の増加に尽力してまいります。

さて、新年は「丙午（ひのえうま）」の年です。丙と午どちらも「火の陽」を表しますことから、地域にとっても皆様にとっても「陽気」と「勢い」に満ちた実りある一年となることに期待を抱いております。新年は、これまでの決断と実行が実を結び、勢いをもつて前に進める年となりますことを願い、本町の発展と町民の皆様の幸せのために力を尽くしてまいります。新年も変わらぬご支援、ご助言を賜りますようお願い申し上げますとともに、私もまちづくりの基

本であります「対話・協働・調和」を銘記し、子どもからお年寄りまで笑顔あふれる優しいまちの実現に向け、不断の研鑽を重ねる所存です。

結びに、新年が皆様にとって健やかで実り多い年となりますよう心よりご祈念申し上げます。そして、本町の未来が明るく豊かなものとなりますよう、町民の皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。

新年のご挨拶



北海道知事
鈴木 直道

新年明けましておめでとうございます。皆様には、日頃より道政の推進にご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、戦後80年を迎える中、北方領土の早期返還に向け、ご高齢となられた元島民の方々の切実な思いに寄り添い、全ての府省と都府県のご協力を得て全国で署名運動を展開しました。今後も粘り強く取組を続けてまいります。

また、長引く物価高により、道民の皆様の生活や事業者の方々の経営が非常に厳しい状況にある中、累次の経済対策を実施してきており、引き続き必要な対応を進めてまいります。

さらには、様々な環境変化で生じる課題やリスクへの対応が求められた年でした。カムチャツカ半島付近の地震を踏まえた津波避難対策や、青森県東方沖の地震とその後初めて発表された北海道・三陸沖後発地震注意情報への対応、道警察や自衛隊との連携などによるヒグマ対策の強化、養鶏場での高病原性鳥インフル

エンザの防疫措置に取り組んだほか、諸外国の政策変更によるグローバルリスクにも対応してまいりました。

そして、新たに制定した北海道子ども基本条例に基づき、社会全体で子育てを支える地域づくりを進め、持続可能な医療提供体制の構築にも取り組んできたところです。

泊発電所3号機については、道民の皆様からいただいた声、関係自治体のご判断やご意見、そして道議会でのご議論を踏まえ、熟慮を重ね、再稼働に同意することとしました。原発の安全の追求には終わりはないとの認識のもと、安全対策などを国や北電に申し入れ、道として防災対策に一層取り組んでまいります。

一方、新千歳空港の旅客数が開港以来最多となるなど観光需要が回復してきている中、北海道のシンボルでもある道庁赤れんが庁舎が大改修を終え、リニューアルオープンから1か月で10万人以上の方々にお越しいただきました。引き続き北海道の歴史・文化や観光情報の発信拠点と

して愛される施設となるよう取り組んでまいります。

大阪・関西万博では、200名超の踊り手によるアイヌ舞踊が世界の方々に披露されました。また、大盛況となった全国菓子博（旭川）や、初開催の北海道豊かな海づくり大会（小樽）、秋の大収穫祭（札幌）を通して生産者と消費者がつながり、本道の食の豊かさを感じていただけたと思います。GXやAI・DX産業の集積への動きも急速に進み、ラピダス社の次世代半導体については、4月にパイロットラインが稼働し、3か月後にはメイドイン北海道の基幹部品の試作に成功しました。

アジア最大級のAIデータセンターが着工し、本道に陸揚げ拠点を新設する国際海底通信ケーブル事業が国の助成事業に採択され、松前沖と檜山沖が道内初の洋上風力発電の促進区域となるなど、これまでの挑戦が着実に具現化しています。

昨年、国は、経済、食料、エネルギーの安全保障に対し戦略的に投資する方針を掲げましたが、こうした分野で我が国をリードできるのが、まさに北海道です。新しい年は、この追い風を捉え、北海道の未来への戦略を描き、本道の存在感を一層高めていきたいと考えています。

地球規模の気候変動により頻発する自然災害など様々なリスクから道民の皆様への命と暮らしを守ることを最優先としつつ、ゼロカーボン北海道の先を見据え、地域との共生を前提とした良質な投資を呼び込み、環

境と経済の好循環の実現を目指すとともに、グローバルな視点に立ち、市町村の特色ある取組を支援し、本道が未来に向けて成長することで、日本の発展にも貢献してまいります。

地域の課題解決や新たな産業創出に向けては、半導体やデータセンターといった産業の振興・集積をトリガーに、北海道を実証フィールドとしてAIの活用を積極的に推進し、効果を全道に波及させてまいります。

農林水産業については、生産力向上と持続的発展を両立させ、食料供給地域としての役割を果たすとともに、北海道の「食」の魅力を国内外に発信します。また、4月から導入する宿泊税を有効に活用し、観光の高付加価値化や受入体制の充実強化等に取り組めます。

間もなく、ミラノ・コルティナ冬季オリンピック・パラリンピックが開幕します。本道ゆかりの選手の活躍を心より願っています。

北海道という挑戦の大地で生まれ、成長に向けて灯してきた希望の種火を、皆様と大切に大きく育て、北海道を新たなステージに押し上げていくために全力で取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして大きな飛躍の年になりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

本年もよろしく
お願いします

天塩町

町長

吉田 忠

副町長

録田 剛

町議会

議長

横山 敦

副議長

渡辺 修勝

議員

菊地 敏

議員

草刈 幸男

議員

山本 春光

議員

後藤 忍

議員

石山 直継

議員

長山 志津子

議員

桑田 孝彦

議員

ほか職員一同

町立病院

病院長

橋本 伸之

教育委員会

教育長

西村 聡

農業委員会

会長

奥山 稔

ほか職員一同

選挙管理委員会

委員長

岸山 久美子

ほか職員一同

監査委員

委員

高橋 泰史

委員

石山 直継

固定資産評価審査委員会

委員長

岸山 清隆

ほか職員一同